

てきおう

No. 05

DECEMBER
2023

撮影：ひろしま気候変動適応センター



写真：気候変動の影響は海にも及んでいます。
海水温の上昇などにより、今後、水面下では、
魚種や植生、生物の生産性などが変化していく
可能性があります。

第5号

令和5年度ひろしま気候変動適応セミナー開催

12/1開催：セミナー報告

県内の皆様への情報提供の一環として、「気候変動の海洋や瀬戸内への影響」を主題にセミナーを開催しました。多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。

講師の講演内容（概要）を紹介いたします。また、講演資料をホームページで公開していますので、是非ご覧ください。

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/tekiouu/seminar3.html>)

セミナーHPの2次元コード→



地球温暖化の海洋への影響について

広島地方気象台 岩本 久雄氏

大気中のCO₂などの温室効果ガスの増加により、地球規模で気温が上昇しています。それに伴い、世界全体の年平均海面水温は年々上昇しており、日本近海ではその傾向が強くなっています。

一方、海洋は大気中のCO₂を大量に吸収しています。このことは、大気中のCO₂の増加を緩和する効果がありますが、海洋の酸性化を引き起こしています。

このように、海洋と大気は相互に影響し合っています。



セミナー会場の様子

気候変動による水温上昇が瀬戸内海の藻場・藻類養殖に与える影響

国立水産研究・教育機構
水産技術研究所 島袋 寛盛氏

海藻・海草が生えている藻場は、食糧生産の場であると同時にCO₂吸収源でもあり、地球上の生き物が生きていく上で欠かせない存在です。現在、海水温は上昇傾向ですが、藻場はわずかな水温上昇で、植生が変化・減少します。

水温上昇がこのまま続けば、藻類養殖の適応策として、ワカメなどより高い水温を好む種類の藻類への変更が選択肢の1つになります。

海藻、海草、そして、藻場の重要性を、まず皆様に知ってもらうことが必要と考えています。

気候変動が瀬戸内海の水質・一次生産に及ぼす影響について

国立環境研究所 東 博紀氏

将来の気候変動が瀬戸内海の水環境・生態系にどのような影響を及ぼすのか？現在と将来の気候のもとで数値シミュレーションを行い、両結果を比較することで明らかになります。

我々の予測では、陸域から瀬戸内海に流れ込む栄養塩の量には有意な変化が見られず、水温上昇による影響が卓越しています。夏・秋は、海水温が高くなり過ぎることで植物プランクトンが増殖しにくくなる海域が出てきて、一年間を通じての生物生産性（一次生産）が減少するなどの予測結果となっています。

なお、モデルの予測は完全ではないため、今後も調査研究が重要です。

広島県からは「気候変動と節足動物が媒介する感染症について」と題して保健環境センターが、「広島県の温暖化関係施策について」と題して環境政策課が講演しました。

てきおう No05 2023年12月号

発行 ひろしま気候変動適応センター（保健環境センター環境研究所）

住所 〒734-0007 広島市南区皆実町一丁目6番29号

電話番号 082-255-7145 FAX 082-252-8642

ホームページ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/tekiouu/>

表紙写真 撮影場所 東広島市安芸津町 大芝大橋

